

株式会社岩村アトリエの概要と主な実績



2017/11/8

1

ごあいさつ

私たちのアトリエは、1980年に前身の「建築都市設計工房岩村アトリエ」を設立して以来、一貫して「環境」と「人」の視点から「建築」や「都市」をとらえ、そのあるべき姿を求めてきました。

法人化した1990年以降は、「環境共生住宅」や「サステナブル建築」の研究・開発等に主体的に関わりながら、次代の持続可能な社会の構築に資する建築・都市のありかたの発見に専念してきました。そして、理論と実践の両面から考え、計画し、実施・検証する場に発展しました。

その間、幸いにも多方面から多彩なお仕事の機会をいただき、産官学の領域を超えた様々なエキスパートの方々や、大学、組織、そして利用者や地域住民の方々と共同することができました。その貴重な経験や交流を通して学んだ実に多くのことこそ、私たち全員にとって大きな財産です。

こうして、広く国の内外を問わず、仕事の内容や性格に応じて臨機応変にそうしたネットワークを組みながら、持続可能で美しい最良の解を発見する。これをアトリエの基本姿勢に据え、今後も皆様や社会のお役に立ちたいと考えています。

岩村 和夫





1. 岩村アトリエの概要

1-1. 概 要

名称、登録、住所 等

2017/11/8

3

- 1) 名 称: 株式会社 岩村アトリエ (IWAMURA Atelier Inc.)
- 2) 登 録: 一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第16978号
- 3) 所 在 地: 〒231-0012 神奈川県横浜市中区相生町一丁目17番地1号 パークビュー横浜301
- 4) 電話番号: (045)211-9215, FAX: (045)211-9272
- 5) E-mail: webmaster@iwamura-at.com URL: www.iwamura-at.com
- 6) 創 立: 1990年8月8日 (1980年に設立した「建築都市設計工房 岩村アトリエ」の法人化による)
- 7) 取引銀行: リソナ銀行 渋谷支店 (普通口座 1631716)
- 8) 主な提携機関:
 - 株式会社 地球工作所 (ランドスケープ・生態計画)
 - 株式会社 テーテンス事務所 (建築環境設備設計)
 - 日本環境技研 株式会社 (環境システム計画)
 - 株式会社 綜建築研究所 (建築関連の調査・研究・開発)
 - 株式会社 TIS & PARTNERS (建築構造設計)
 - 日本ビオトープ協会 (ビオトープの普及・啓発)
 - 一般社団法人 環境共生住宅推進協議会 (kkj: 環境共生住宅の開発・普及)
 - 一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構 (IBEC: 省エネルギー建築環境の開発・普及)
 - 一般社団法人 日本サステナブル建築協会 (JSBC: CASBEEの研究・開発・普及)



1. 岩村アトリエの概要

1-2. 業務内容

建築・都市デザイン、調査・研究 等

2017/11/8

5

1) 調査・研究

- 立地自然環境の調査・分析
- 立地人文環境の調査・分析
- 総合的建築環境性能評価システム（CASBEE）の研究・開発・コンサルティング

2) 企画・計画

- 地域・都市開発計画の策定
- 都市再開発計画の調査・研究、および策定

3) 建築・都市デザイン

- 施設建築物の企画・計画・設計・監理
- 施設建築物の管理・運営計画の策定
- 上記に係わる事業計画の策定、コンサルティング
- 家具・什器等の開発・デザイン・設計
- ストリートファニチャ等環具の企画・開発・デザイン・設計・監理
- 各種インテリアデザイン、グラフィックデザインの企画・計画・設計・制作・監理

4) 環境デザイン

- 環境共生型ランドスケープの研究・開発、および計画・設計・監理
- 環境共生型まちづくりの研究・開発・推進
- 環境共生住宅（団地）の研究・開発・企画・計画・設計・監理
- その他環境共生型建築の企画・計画・設計・監理
- 風致景観整備計画の調査・研究、および策定
- 建築生物学（バウビオロジー）に関する調査・研究

5) その他

- 上記業務に係わる各種メディアによる展示・イベント・会議・ワークショップ等の企画・製作・実施
- 上記業務分野に係わる、各種文献調査・翻訳（英語、ドイツ語、フランス語）等の情報サービス
- 上記業務分野に係わる出版物の企画・編集・デザイン・製作
- その他上記に係わる一切の業務



1. 岩村アトリエの概要

1-3. スタッフ

正社員、パートナー 等

2017/11/8

7

■ 岩村 和夫 Kazuo IWAMURA

主宰・総括／代表取締役／CASBEE建築・戸建評価員
東京都市大学 名誉教授
香港珠海学院 建築学科 客員教授
東京工業大学 非常勤講師

■ 岩村 マグダレーナ Magdalena Precht-IWAMURA

企画・アートディレクション担当／専務取締役
FARBEN-CASTELL ACADEMY at Itoya 講師

■ 奥平 與人 Tomohito OKUDAIRA

設計部主幹／計画・設計・監理担当／管理建築士／取締役
一級建築士／マイスター商業施設士

■ 三井所 清史 Kiyoshi MIISHO

計画・研究部主幹／調査・研究・開発担当／取締役
建築・まちづくり計画関連調査・研究・コンサルティング 担当

■ 岩村 寛人 Kanto IWAMURA

建築計画、インテリアデザイン、グラフィックデザイン・制作担当
英国AAスクール講師

● 樫野 桂子 Keiko KASHINO

□ 石崎 竜一 Ryoichi ISHIZAKI (非常勤パートナー)
建築・まちづくり計画・設計・監理担当／一級建築士
関東学院大学 建築・環境学部 非常勤講師

□ 牧内 恵里子 Eriko MAKIUCHI (非常勤パートナー)
建築計画関連調査・研究担当／二級建築士
女子美術大学 芸術学部 非常勤講師

□ 東條 一己 Kazumi TOIYO (非常勤パートナー)
計画・設計・監理担当
一級建築士／CASBEE戸建評価員



1. 岩村アトリエの概要

1-4. 主宰者略歴

履歴、職歴 等

2017/11/8

9

岩村 和夫（いわむら かずお）

■履歴：

1948年：神戸市生まれ（4月29日）

1971年：早稲田大学理工学部建築学科卒業

1973年：同大学院修士課程修了後、フランス政府外務省給費研修生（技術交流）として渡仏

1974年：在パリ、「Georges Candilis事務所」入所

1976年：在アテネ、「Candilis-Denco事務所」に転属

1977年：ドイツ、ダルムシュタットにドイツ人パートナー4名とともに「建築都市設計同人AG5」設立。主に中近東、ドイツで建築、都市デザインを中心とした業務に従事

1980年：帰国後、東京に「建築都市設計同人岩村アトリエ」設立（1990年に法人化）。以来、同所を拠点とし、エコロジカルな「環境デザイン」の立場に立ち「持続可能な社会」の構築に資する建築・まちづくりのソフト・ハード両面における調査・研究・開発、および企画・計画・実施に係わる活動に従事

1998年：武蔵工業大学環境情報学部教授就任（2002年同大学院設立とともに同教授就任）

2002年：日本建築家協会（JIA）理事（2004年同副会長）就任、国際建築家連合（UIA）理事就任

2006年：日本建築学会理事、日本学術会議連携会員就任

2008年：国際建築家連合（UIA）副会長、シンガポール政府国際諮問委員 就任（2011年まで）

2009年：東京都市大学（旧武蔵工業大学）都市生活学部教授（大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授兼任）就任（2014年3月まで、2014年4月から同名誉教授）

2014年：香港珠海学院建築学科・同大学院 客員教授就任、現在に至る



2017/11/8

10

岩村 和夫（いわむら かずお:続き）

- 言 語：日本語、英語、ドイツ語、フランス語
- 著 書：「建築環境論」（SD選書211／鹿島出版会／1990）
「住まいとまちの万華鏡」（創樹社／2015） 他
- 訳 著：「自然な構造体（F.オットー編著／独文和訳）」（SD選書201／鹿島出版会／1986）
「Architecture for a Sustainable Future（和文英訳・編集）」（IBEC／2005）
- 共 著：「西洋温泉事情」（鹿島出版会／1989）
「共に住むかたち」（建築資料研究社／1997）
「環境共生住宅A-Z」（バイオシティ／1998、新版：2009）
「地球環境建築のすすめ」（日本建築学会／2002、第二版：2009）
「地球環境時代のまちづくり」（丸善／2007）
「建築・まち模型づくりマニュアル」（彰国社／2012） 他
- 編 著：「Architecture of the Future（英文）」（日本建築家協会／1999）
「サステナブル建築最前線」（バイオシティ／2000）
「Asian breezes, towards sustainable architectures（英文）」（日本建築家協会／2005年）
「安全保障住宅をつくる」（創樹社／2012）
「CASBEE（英文）」（IBEC／2014） 他

2017/11/8

11

- 主な作品：「日本老化制御研究所」（袋井市／1985）
「自邸ーカッセル・エコロジー団地」（ドイツ、カッセル市／1991）
「ハドソン中央研究所」（札幌市／1992）
「ファンハウス札幌スタジオ」（札幌市／1993）
「ちきゅうむら一番地」「同センターハウス」（北九州市／1993）
「東京都市空間展」（パリ市ルーブル宮／1994）
「いわき・風舎村」「同センターハウス」（いわき市／1994）
「河原町1丁目西地区市街地再開発」（仙台市／1995）
「世田谷区深沢環境共生住宅」（世田谷区／1997）
「YOMIKO湘南OVA」（横須賀市／1998）
「うつくしま未来博・21世紀建設館」（福島県／2001）
「屋久島環境共生住宅」（鹿児島県／1期：2001、2期：2006）
「望楼の家」（埼玉県／2006）
「神戸ドイツ学院／ヨーロッパンスクール」（神戸市／2009）
「朝日新聞販売ASA藤沢中央店」（藤沢市／2013）
「The Meta-Sand Spiral（国際設計競技参加案／エジプト、ギザ市／2016）」 他
- 主な受賞：「1997年度グッドデザイン賞（建築・環境部門）」（対象：ファンハウス札幌スタジオ／北海道札幌市）
「2000年度JIA環境建築賞優秀賞」（対象：世田谷区深沢環境共生住宅）
「国連UN-Habitat: World Habitat Award 2001」（対象：世田谷区深沢環境共生住宅／東京都世田谷区）
「American Wood Design Awards 2001」（対象：うつくしま未来博・21世紀建設館／福島県須賀川市）
「2003年日本建築学会賞（業績部門）」（対象：環境共生住宅に関する一連の業績）
「2008年度JIA環境建築賞優秀賞」（対象：望楼の家／埼玉県美里町）
「2013年度JIA環境建築賞最優秀賞」（対象：神戸ドイツ学院／神戸） 他



2. 岩村アトリエの主な実績

2-1. 著 書

単 著・共 著・編 著・訳 著 等

2017/11/8

13

	住まいとまちの万華鏡 単著 2015.2 創樹社	中近東、アフリカ、ヨーロッパ、スカンジナビア、北南米、アジア、オセアニア、日本...岩村は1970年代から50カ国・300都市を優に超える場所を旅してきた。本書は、その膨大な体験に基づき100カ所を選びとり、万華鏡のようなルポルタージュとしてまとめ上げた「住まいとまち」の手引き書である
	CASBEE (英文) 共著 20014.4 建築環境・省エネルギー機構	CASBEEの創設10周年を記念し、その活動と成果の全容を英文でまとめた解説書。村上周三、Ray Cole両先生と共に岩村が共著者として全体構成を行い、その他の分担執筆した全文を英訳した
	安全保障住宅をつくる 編著 20012.10 創樹社	東日本大震災以降、岩村が中心となって進めてきた災害と環境に関する調査・研究の成果。平時→災害時→復興時を連続的に捉える「安全保障住宅」の概念を広範におよぶ具体的な技術やシステムを交えて整理した。創樹社の編集部と協力してムック本として取りまとめた

2017/11/8

14

	建築・まち模型づくりマニュアル 共著 2012.5 彰国社	これまで岩村アトリエは共著者の埴智之が中心となり、長年にわたって建築・まちづくりの模型制作に関するノウハウを蓄積してきた。その全容を、わかりやすいマニュアルとして体系的にまとめた学生向けの教科書
	CASBEE すまい[戸建]入門 編著 2007.10 創樹社	日本が独自に開発した建築物に関する総合的環境性能評価システムであるCASBEEのツールの一つとして、新たに開発された「CASBEE-すまい(戸建)」の全容について、わかりやすく解説した入門書。村上周三先生の下で岩村をはじめ開発に当たった当事者が編集・執筆した
	地球環境時代のまちづくり 編著 2007.10 丸善	本書は、日本建築学会のまちづくり支援会議の出版活動の一連として編纂された「まちづくり教科書シリーズ」第十巻にあたる。地球環境時代における新たな理念や方法論によって作り、マネジメントするまちづくりについて、第一線の著者とともに編集・執筆した(日本建築学会編)

2017/11/8

15

	Architecture for a Sustainable Future ~All about the Holistic Approach in Japan (英文) 編著 2005.9 建築環境・省エネルギー機構	SB05国際会議東京大会の開催を機に、2002.8に発行したシリーズ地球環境建築入門編「地球環境建築のすすめ」を、その後の新たな知見等も反映しながら改訂し、全編を英訳した書。岩村が全編の改訂および英訳にあたり、国際的に高い評価を得た
	asian breezes ~towards sustainable architectures (英文) 編著 2005.6 日本建築家協会	国際建築家連合(UIA)傘下のワークプログラム「Architecture for a Sustainable Future」の活動の一環として、ディレクターを務めた岩村が中心となって、アジアにおける最新の事例を集め編集した初めての英文書。2005 UIAイスタンブール大会で公表した
	シリーズ地球環境建築 専門編1「地域環境デザインと継承」 編著 2004.5 彰国社	同シリーズ入門編に引き続き、専門編1として近年関心が高まっている建築環境と地域環境デザインとの関係、および継承すべき側面に関して総合的にまとめた、我が国初めての専門書(日本建築学会編)

2017/11/8

16

	Cultural Aspects of Environmental Housing in Japan(英文) 単著 2003.9 Blackwell Publishing, UK	カナダBritish Columbia大学で開催された環境建築を巡るワークショップの成果をまとめた英国の学術書 (Buildings, Culture & Environment)。岩村は日本の住宅事情を概説し、その延長上にある環境共生住宅の位置づけと、事例を通して文化的な視点からの課題を明らかにした
	シリーズ地球環境建築入門編 「地球環境建築をめざして」 編著 2002.8(第二版2009.7) 彰国社	日本建築学会をはじめ建築関係5団体が連名で発表した「地球環境・建築憲章」に基づき、地球環境時代における建築のあり方を、第一線の執筆者によって我が国で初めて入門編の教科書として、わかりやすくとりまとめた
	CASBEE入門 ～建築物を環境性能で格付けする～ 編著 2002.8 日経BP社	日本独自の建築物に関する総合的環境性能評価システムであるCASBEEの全容について、一般向けにやさしく解説した入門書。村上周三先生の下で開発にあたった、岩村をはじめとする当事者が編集・執筆した

2017/11/8

17

	グローバル・ドキュメント2000: サステナブル建築最前線 編著 2000.6 バイオシティ	岩村は日本建築家協会における「未来の建築/AOF」、および季刊雑誌「バイオシティ」の場でサステナブル建築・都市について取材・研究してきた。その近年における優れた最前線の事例を包括的にドキュメントとしてまとめ、多くの執筆者とともに論考した
	AOF Document (英文) 編著 1999.5 日本建築家協会	国際建築家連合(UIA)のワークプログラムの一つとして、日本建築家協会が進めてきた「未来の建築(AOF)」。その理念と実践に関する6年間にわたる活動のまとめとして、UIA1999北京大会に向けて出版した英文解説書
	環境共生住宅 A-Z 編著 1998.11 バイオシティ	環境共生住宅の計画プロセスとその技法、そして評価の考え方や具体的手法について、これまで蓄積してきた知見と事例を網羅的に、かつ豊富な図版とともにわかりやすく整理した手引き書(環境共生住宅推進協議会編)

2017/11/8

18

	環境共生とエコハウジング シリーズ土曜建築学校 ④「共に住むかたち」 単著 1997.11 建築資料研究社	環境共生とエコハウジングの系譜と現在について、自らの体験をもとに、国内外の理論と実践に則して詳細に語った、「土曜建築学校」の講義録
	環境共生住宅宣言 編著 1992.10 ケイブン出版	建設省住宅局の主唱で創設され、岩村が総括コンサルタントを勤めた「環境共生住宅研究会」の成果をまとめた本。居住環境から地球環境まで、様々な環境と共生できる住まいの考え方、技術を概説(監修:建設省住宅局住宅生産課)
	建築環境論 単著 1990.3 鹿島出版会	岩村のドイツや日本での経験をもとに、建築生物学(バウビオロギー)の観点から現代建築の人間環境としての現状を検証し、生き物と建築と環境との新たな関係性を描いた

2017/11/8

19

	西ドイツのエコロジー団地 講座「地球環境」 5. 地球環境と市民 共著(分担) 1990.3 中央法規	著者も参加して自邸を設計・建設した、ドイツ・カッセル市のエコロジー団地の基本的な理念・仕組みから具体的な手法・技術に至る概要を、経緯に則して解説し、その全容を明らかにした
	西洋温泉事情 共著(分担) 1989.12 鹿島出版会	欧州を中心とした16の温泉地について歴史的、文化的、社会的背景を詳述し、ローマ時代以来の西洋温泉事情を巡る解説書。(池内紀編集、岩村担当:スイス/バーデン、およびフランス/ヴィッテル)
	自然な構造体 訳著 1986.7 鹿島出版会	ドイツの世界的構造デザイナー、フライ・オットーの編著による、建築構造と自然界の構造体に関する膨大な実績をもとにした、画期的な哲学的名著「Natürliche Konstruktionen」の独文和訳

2017/11/8

20



2. 岩村アトリエの主な実績

2-2. 住宅作品

戸建住宅・集合住宅・住宅団地 等

2017/11/8

21

	4G House/NEXT 21 4世代型住戸 PC/8Fの一部 2015. 7 大阪府大阪市	1990年代の環境共生型集合住宅の記念碑である大阪ガスのNEXT21は、定期的の実証的な住戸のリニューアルを試みている。本計画もその一貫としてコンペを行い、大京グループと岩村アトリエが共同した女性4世代都心型住まいの提案が選ばれ、実現した(詳細はこちら) ★2015年度グッドデザイン賞
	S邸 専用住宅 RC造/B1+3F 2012.3 東京都目黒区	都心住宅地に建つ戸建環境共生住宅。首都圏の直下型大地震に備えて、岩村が提唱する「安全保障住宅」の理念・技術を反映した都心型終の棲家として、耐震、レジリエンス等の各種の先進的な取り組みを実装した
	A氏邸 戸建住宅 在来木造/2F 2011.1 埼玉県本庄市	本庄市駅近郊の住宅地に建つ戸建住宅で、アレルギー体質の家族のために、VOC(揮発性有機化合物)を極力含まない建材や自然素材を多用した、二世帯型環境共生住宅

2017/11/8

22

	「コンパクト・ハウス」 S氏邸新築工事 戸建住宅・事務所 在来木造/B1+3F 2007.8 東京都大田区	ロ・ハウスの都心版として狭小敷地に建つ木造コンパクト・ハウス。「望楼の家」と対極的な立地や与条件に鑑み、まちなみの積極的改善に寄与する快適な戸建オフィス併用住宅。
	望楼の家 戸建週末住宅 在来木造/平屋 2006.8 埼玉県美里町	「エコロジカル・ハウジング研究会」ケーススタディ住宅第2弾として、埼玉県児玉郡の田園地帯に建つ週末住宅。環境共生住宅として優れた環境条件に恵まれた立地を得て、CASBEEによる評価でも最高Sランクを得た(詳細はこちら) ★2008年度JIA環境建築賞 ★2009年埼玉県環境建築住宅賞
	葛城の家 建売戸建住宅 在来木造/2F 2005.9 茨城県つくば市	地域の工務店によって「TXつくば住まいと暮らし博」に出展した、環境共生型木造展示住宅。展示会後に分譲された

2017/11/8

23

	高森の家 戸建週末住宅 在来木造/2F 2005.3 長野県高森町	長野県高森町の高台に建つ、週末住宅。地域の代表的な民家である「本棟造り」に模している。構造材及び内装材は県産材である根羽杉を活用し、仕上げは蜜蝋ワックスにすることで、より自然な風合いに仕上がった。生垣や、植栽や塀は、お施主さんが定年後の楽しみにしたため、竣工時は植栽は何もなかったが、一年後見事に整備された
	屋久島環境共生住宅 公営住宅団地 在来木造・RC/平屋 2001.3～2006.3 鹿児島県上屋久町	世界自然遺産に登録された屋久島に建設された、鹿児島県営住宅と上屋久町営住宅を合わせて計50戸と集会場からなる木造平屋公営住宅団地。県の「南の家」環境共生住宅モデルとして、屋久島の地域性に適合した住まいのあり方を徹底的に追求し、伝統的集落に多くを学んだ蒸暑地域独特の住環境を実現した(詳細はこちら)
	Y氏邸 戸建住宅 在来木造/3F 2005/1 埼玉県さいたま市	首都圏駅前のブロックに立地する戸建木造住宅。母親の介護を予定したバリアフリーの環境共生住宅で、「CASBEE-すまい(戸建)」の評価はAランクを得た

2017/11/8

24

	須之部邸「ツエルコバ」 戸建住宅 在来木造/2F 1997.4 埼玉県与野市	埼玉県与野市郊外に立地する戸建て住宅の建て替えとして計画・実施された2世帯環境共生住宅。親子3世代の住み手の積極的な参加を得て、植生や建材の保全・再利用も含め、地域の環境資源としての持続可能な住まいづくりが実現した ★平成9年度彩の国さいたま まちなみ景観賞 ★平成10年度環境省エネルギー住宅賞
	世田谷区深沢環境共生住宅：市浦設計とJV 公営住宅・デイホーム RC/3F(一部5F) 1997.3 東京都世田谷区	世田谷区営集合住宅団地で、戦後建設された都営住宅の建替事業。国の環境共生住宅建設推進モデル事業として、住人計画参加、デイホームの合築、ソーシャル・ミックス等、総合的に取り組んだ環境共生住宅団地の第1号。代表的成功例として国内外から大きな反響を得た(詳細はこちら) ★2000年度JIA環境建築賞 ★国連UN-Habitat World Habitat Awards 2011
	木なりの家 Aタイプ、Bタイプ モデル戸建住宅 在来木造/2F 1997.3 茨城県竜ヶ崎市	茨城県による地域適合型木造住宅の開発の一環として、竜ヶ崎ニュータウン新世紀邑南2街区に試作され分譲された環境共生住宅のプロトタイプ。伝統的な木組みを合理化し、耐久性・耐用性の高度化と、コスト縮減、施工性の向上などを実現するとともに、「木なりの家」として新しい真壁構法による木の素材感を最大限に活かした

2017/11/8

25

	杉陽荘／ファーム・スイート・ホーム 戸建住宅 在来木造/2F 1995.3 千葉県沼南市	施主とともに環境共生住宅の思想を反映した農家の増築。東京近郊で農業を営む4世代家族の農家である。農業を中心としたライフスタイルを尊重し、できるだけ設備機器によらずに快適に暮らせる、開放型の環境共生住宅を実現した
	ツインタワー広瀬川・春園(しゅんぼ) 高層集合住宅鉄骨・店舗 SRC/B1+28F 1995.2 静岡県袋井市	市街地再開発事業として、まちづくりと共に整備された超高層集合住宅(130戸)。地権者との初期の勉強会の段階からコンサルタントとして参加。事業化段階では「ブレーン・ネットワーク」を組織し、基本構想時のまちに開き記憶を孕んだ計画がほぼそのまま実現した。基本設計から山下設計とJV、実施設計・監理はデザイン監修を行った
	いわき風舎村センターハウス 展示住宅・事務所 在来木造/2F 1994.10 栃木県黒磯市	地域振興整備公団常盤支部20周年記念事業として整備されたいわき風舎村のセンターハウス。ニュータウンづくりの基本コンセプトとなった「環境と共生する住まい・まちづくり」の体験的施設として実現した木造、緑化屋根の同センターハウスはそのシンボル。後に恒久利用のために移築された(詳細はこちら)

2017/11/8

26

	風光の家 環境共生住宅 展示住宅 在来木造/2F 1994.10 福島県いわき市	「いわき風舎村」の一角に、地場の建設会社によって建てられた展示住宅。環境共生住宅のモデルとして企画・設計監修を行った
	いわき風舎村 環境共生型住宅展示場 — 1994.10 福島県いわき市	地域振興整備公団常盤支部20周年記念事業の一環として、いわきニュータウンの業務地区予定地に整備開催された環境共生型住宅展示場。その中心にビオトープを抱く構成で、各展示住宅の監修を含め、総合的な共生環境を実現した(詳細は こちら)
	ちきゅうむら一番地 センターハウス 展示住宅 在来木造/2F 1993.8 福岡県北九州市	北九州市の市制30周年記念事業として整備された環境共生型住宅展示場およびそのセンターハウス。「環境共生住宅(市街地)」の総合的なミュージアムとして、日本で初めて実現したモデルプロジェクト。住宅展示場として3年間運営された後、恒久利用のため曳き家、移築された

2017/11/8

27

	岩村自邸／カッセル・エコロジー団地 戸建住宅 木造/2F 1991.8 ドイツ、カッセル市	建築生物学の観点から環境への配慮を徹底した、コーポラティブ方式による団地開発のコンセプトに共感し、建設した岩村自邸。中庭を挟んで母屋と離れが向き合う2世帯住宅で、配置や断熱性など、基礎的なパッシブな環境共生技術を駆使した(詳細はこちら) ★1993ドイツ建築家協会Simon Louis du Ry賞
	メゾン・ドシノ 集合住宅 RC/3F 1990.8 東京都目黒区	住宅建て替えにあたり、企画・事業計画から全事業プロセスをプロデュースして実現した都市型低層集合住宅(6戸)。個々の居住性はもちろん、複雑な敷地のレベル差を利用しながら、近隣に対する表情や空間に十分配慮した
	OHハウス 連棟住宅 在来木造/2F 1989.6 東京都目黒区	中目黒の閑静な住宅地にできた、旗竿状敷地に建つ在来木造構法による連棟二階建て住宅。企画・事業計画からすべての事業プロセスをプロデュースした。竣工以来、アトリエと岩村自宅として2015年8月まで、25年間にわたり使用した

2017/11/8

28



2. 岩村アトリエの主な実績

2-3. 建築作品

事務所・研究所・学校・集会場 等

2017/11/8

29

	朝日新聞販売 ASA藤沢中央店 事務所・集会室・住宅 RC造/4F 2013.6 神奈川県藤沢市	新聞を巡る情報社会の変遷を背景に、日本独特の新聞販売所の役割も大きく変わりつつある。そうした状況に関する調査研究からはじまり、地域に貢献できるあらたな役割の提案を含め、これからの新聞販売所の形を一つの新しいモデルとして具現化した
	神戸ドイツ学院／ヨーロッパンスクール 保育園・幼稚園・小学校 木造(一部RC)/2F 2009.7 兵庫県神戸市	神戸市にあるドイツ・欧州子弟のための幼稚園・小学校の創立100周年記念移転新築工事。ドイツ総領事館支援のプロポーザルを経て、設計・監理を委託された。徹底して環境に配慮した木造学校建築が実現した(詳細はこちら) ★2008年度国土交通省・住宅建築物省CO2推進モデル事業採択 ★2013年JIA環境建築賞一般建築部門最優秀賞
	H薬局 店舗併用住宅 在来木造/2F 2003.7 埼玉県本庄市	2000年から本庄市で継続してきた「エコロジカルハウジング研究会」の実践的なケーススタディーとして設計・監理した薬局＋住宅の複合建築。在来木造の環境共生建築の普及のために、会員の工務店によるオープン Tender方式によって実施に移された

2017/11/8

30

	うつくしま未来博／ 21世紀建設館 展示パビリオン 木造/平屋 2001.5 福島県須賀川市	首都機能移転を想定した「森にしずむまち」をテーマにして福島県須賀川市で開催された地方博覧会。その自然に恵まれた会場に建設された県のパビリオンである。棚田状の敷地を覆う樹木状の柱で支えられた曲面緑化屋根が特徴の構造体は、全て解体・移設可能な先端の木構造で構成した(詳細はこちら) ★American Wood Design Award 2002
	まきうち歯科 歯科医院 RC+在来木造/2F 2001.10 長野県飯田市	交通量の多い道路に面し、斜面地の建つRC+在来木造の混構造による歯科クリニック。従来の診療所のイメージにとらわれず、極力敷地周辺との調和と新たな景観の創出を図り、患者と医師側の両者にとって心地よい環境作りに最大の力点を置いた ★平成13年度飯伊地域景観賞(建築の部)
	日本科学未来館内 エコハウス常設展示 展示施設 木造/平屋 2001.6 東京都江東区	新設された21世紀型科学博物館の1階に環境共生型の住まいづくりに関する技術・文化・生活を総合的な常設展示として企画・設計した。伝統的な工夫や知恵と、先端技術との統合する取り組みを重層的に原寸で表現し、来館者の高い評価を得た

2017/11/8

31

	「農と匠の里」匠の館 基本計画案 文化施設 木造/2F 1998.3 三重県松阪市	匠の館は、「農と匠の里」の中核施設。コンセプトである「アートと食文化」に関する以下の多様な事業を展開を提案した。農業等地域産業や、伝統文化に関する様々な情報発信・支援・育成。地域の伝統工芸の匠の技や食文化の体験。施設の内外空間を存分に活用した様々なフォーラムやイベントの開催等
	YOMIKO湘南OVA 研修場・宿泊施設 RC/3F 1998.3 神奈川県横須賀市	東京銀座に本社のある広告代理店の環境共生型研修所。企業と生活者を結ぶ研修拠点として環境のテーマを実感できる滞在型研修所の構築が求められた。湘南国際村という立地条件と応答しながら、銀座とは対極の大きな館のような施設環境を実現した
	東京都都市空間展 展覧会 1994.10 フランス、パリ市、ルーブル宮地下展示場	パリ市で開催された東京都市空間展に出展した東京都環境共生住宅の模型、パネル、ビデオ、パンフレット等からなる一連の作品。東京都住宅局として、都市型の環境共生住宅市街地を提案。富田勉による巨大な模型とともにマルチなメディアによる展示を、ルーブル宮地下での運営まで含めて担当し、大好評を博した

2017/11/8

32

	ファンハウス札幌スタジオ 録音スタジオ・宿泊施設 RC/3F 1993.3 北海道札幌市	札幌市芸術の森3丁目に建つ滞在型リゾート録音スタジオ。札幌近郊の豊かな自然に接する丘陵状ランドスケープと一体化するように挿入され分節化された集落状の空間を形成し、パッシブで快適な熱環境と高度な音環境を実現した（詳細は こちら ） ★1997年度グッドデザイン賞／建築・環境部門（経済産業省）
	ハドソン中央研究所 事務所・研究所・美術館 RC/3F 1992.8 北海道札幌市	札幌市芸術の森3丁目に建ち、企業の研究所及び展示館機能をもつ、コンピューターソフトの研究開発拠点。アート・情報・エコロジーをテーマにした地区の土地造成の段階から企画・プログラム・設計の勉強会を重ね、新たな先端的ビジネス環境を実現した
	クリマトリウム 温室 鉄骨/2F 1988.10 静岡県袋井市	伝統的木造住宅の温熱環境の改善を兼ねて、段差のある敷地に挿入された温室。パッシブソーラーの原則に基づく様々な技術と空間構成を導入した

2017/11/8

33

	日本老化制御研究所 研究所・集会場等 RC/2F 1985.10 静岡県袋井市	食と住と心の健康を研究・実践する企業の研究拠点となる複合施設。背後の丘と一体化したランドスケープとして建築空間に回遊性を創出し、そこに沿って様々な空間のシークエンスを凝縮した
	バトー・コック 店舗併用住宅 在来木造/2F 1982.10 栃木県黒磯市	第1回SDレビューに入選した、小規模な店舗併用週末住宅。在来木造の伝統的な技術によって、形態のもつ直接的な引喩を表現した。岩村アトリエ実作第1号

2017/11/8

34



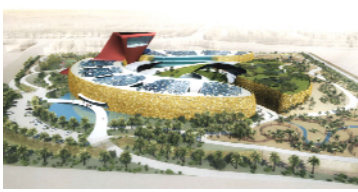
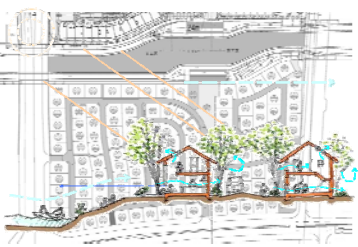
2. 岩村アトリエの主な実績

2-4. 都市デザイン

市街地再開発・地区開発・都市計画 等

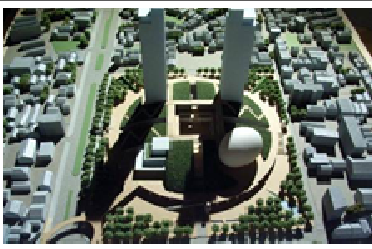
2017/11/8

35

	Meta Sand Spiral (国際設計競技参加案) 安井設計とJV The Science City 2016.8 エジプト、ギザ市	UIA認定の国際設計競技で、エジプト、ギザ市に科学をテーマにして新たに作られる1ブロックの都市。時間・空間の軸で整理した「Meta Sand Spiral」のコンセプト。それに基づき、砂をCO2で固化して建材化する技術や、先端的な建築構法を駆使して、螺旋状の中庭を抱く、有機的でレジリエントな都市・建築を提案した(詳細はこちら)
	レイクタウン美環の杜 ニュータウン戸建地区 木造/2F 2011.3(分譲完了) 埼玉県越谷市	埼玉県越谷市に都市再生機構が開発した大規模ニュータウン「レイクタウン」の一角に整備された一戸建ての住宅団地。開発主体である大和ハウス工業と連携し、その環境共生型の基本コンセプトから、シミュレーションに基づくパッシブなまちづくりの配置計画等を担当した ★環境省2008年度街区まるごとCO2削減事業
	緑の丘のターミナル: Shibuya Project 2050 (自主計画案) 渋谷駅周辺再開発 2010.1 東京都渋谷区	東京都市大学の都市生活学部創設に伴い、渋谷界隈の共同研究が実施された。その一環として、岩村は2050の渋谷駅近辺に円い丘状のターミナル空間を提案した。現状の交通インフラを維持した上で、水と緑溢れる多孔質な環境の創出をイメージした(詳細はこちら)

2017/11/8

36

	地球の丘一番地 (計画案) 工場跡地開発複合施設 2006.9 愛媛県松山市	JTの工場跡地利用に対する、松山市中心市街地活性化を標榜するまちづくり会社の呼びかけに応じて調査作成した環境共生都市開発案。まちに開いたシンボリックな提案は市民や市も巻き込み、大きな反響を呼んだ
	小名木川貨物駅跡地計画(安井設計委託業務) まちづくり総合コンセプト 2006.4 東京都江東区	江東区の貨物駅跡地に整備される大規模SCのコンセプトを策定するための、総合的な調査・分析と基本方針の作成業務。特に、都心立地条件の立体的分析に基づき、環境に配慮した新たなSCの実現をめざした
	三軒茶屋地区をモデルとしたサステナブルな街づくりと分散型エネルギーシステム 市街地計画 2005.10 東京都世田谷区	東京ガスの委託で実施された調査研究。分散型エネルギーシステムを導入した市街地のサステナブルな再開発の可能性について、東京大学大岡研究室のシミュレーションを通じて詳細な分析を行った。この成果を国際会議SB05や学会大会で発表した

2017/11/8

37

	百年三井の森(設計競技計画案:清水建設とJV) 低・中・高層住宅団地 RC/2F~10F 2005.9 東京都杉並区	大手ディベロッパーが所有する広大な杉並区内の運動公園を、環境配慮型の住宅団地開発案を募る設計競技の参加案。多様な形態の住宅群やランドスケープをその運営ソフトを含めて総合的に計画した。清水建設とJVを組み、最終選考(2案)まで残ったが、惜しくも敗退した
	都筑区まちづくりプラン 横浜市都市計画マスタープラン 2002.5 神奈川県横浜市	武蔵工業大学(現東京都市大学)環境情報学部が立地する都筑区のまちづくりプラン。横浜市都市計画マスタープランの一面をなす。同区と様々なレベルで連携する大学の岩村研究室を拠点とし、詳細な調査・分析に基づくテーマ毎の目標を図解し、明快地に整理した
	屋久島環境共生住宅 公営住宅団地 在来木造・RC/平屋 2001.3~2006.3 鹿児島県上屋久町	世界自然遺産に登録された屋久島に建設された、鹿児島県営住宅と上屋久町営住宅を合わせて計50戸と集会場からなる木造平屋公営住宅団地。県の「南の家」環境共生住宅モデルとして、屋久島の地域性に適合した住まいのあり方を徹底的に追求し、伝統的集落に多くを学んだ蒸暑地域独特の住環境を実現した(詳細は こちら)

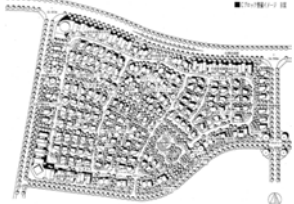
2017/11/8

38

	千種二丁目地区循環型 まちづくり基本計画 工場跡地再開発 2001.3 愛知県名古屋市	都市基盤整備公団中部支社によるビール工場移 転に伴う大規模跡地再開発のコンサルタントとして、 詳細な周辺環境分析と、それに基づく「循環型まち づくり計画指針」を含む基本計画を策定した。その 後、本計画に基づき実施に移す段階で、SC、大規 模集合住宅、研究所、事務所等各施設の評価・監 修を行った
	住都公団新田地区設計 検討業務 大規模住宅団地 2000.3 東京都足立区	区部における住宅・都市整備公団最後の大規模 住宅団地「ハートランド新田」の計画・設計・建設に 係わる、環境共生の視点からのコンサルティング。 全体のマスターアーキテクトは三井所清典先生、 ランドスケープアーキテクトは宮城俊作氏
	ABCハウジング 藤沢住宅 公園新築工事企画・設計 監理業務 住宅展示場 1999.4 神奈川県藤沢市	藤沢市に新しくオープンする環境共生住宅型の住 宅展示場の企画・設計・監理業務。センターハウス の設計も担当した

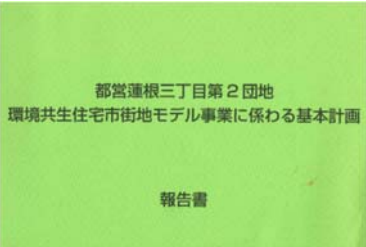
2017/11/8

39

	松阪「農と匠の里」整備 事業基本計画案 テーマ型地域開発 木造/2F 1998.3 三重県松阪市	「農と匠の里」では、農業や自然環境の体験学習 を通じて様々な交流を生み出していくとともに、 農業や日常的な暮らしの中で「匠」の技を再発見 する。更に環境の時代の21世紀に向けて、自然と 共生できる持続可能な新たな「匠」の技の再構築 を行い、その技を活かした地域振興を図る。エコロ ジー、アート、食文化の基本テーマに基づき、多様 な木構造の施設、ランドスケープを提案した。
	新世紀邑南2街区 (竜ヶ崎ニュータウン龍ヶ 岡地区) ニュータウン再開発 1997/5 茨城県竜ヶ崎市	住都公団による「竜ヶ崎ニュータウン」開発計画の 全体的な見直しの過程で、環境共生をテーマに全 体コンセプトの立ち上げから実施までの作業の一 環として実現した戸建住宅地。様々なアプローチ による提案型住宅をプロデュースし、来街者がま ちなみぐるみで体験できるHOUSING EXPO会場とし て運営。一年後、個々の住宅を分譲した
	千葉ニュータウン23街区 計画 ニュータウン整備計画 1995.4～1997.3 千葉県白井市	住宅都市整備公団千葉開発局によるニュータウン 開発計画の見直しに伴う、23街区の整備計画の 策定

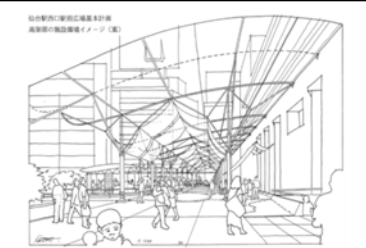
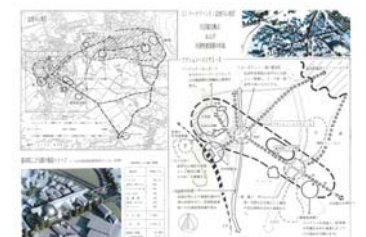
2017/11/8

40

	いわき市環境共生住宅 基本計画 ニュータウン整備計画 1995.3 福島県いわき市	地域振興整備公団によるニュータウン開発計画の 見直しに伴う、環境共生型住宅団地モデル整備計 画の策定
	都営蓮根三丁目第2団 地環境共生住宅基本計 画・基本設計監修 都営住宅団地 1995.3 東京都	世田谷区深沢の事例に引き続き、都営住宅の建 て替えを環境共生住宅団地として実施するための 基本計画・基本設計の策定
	ツインタワー広瀬川・春 園(しゅんぼ) 市街地再開発 SRC/B1+28F 1995.2 宮城県仙台市	市街地再開発事業として、まちづくりと共に整備さ れた超高層集合住宅(130戸)。地権者との初期の 勉強会の段階からコンサルタントとして参加。事業 化段階では「ブレーン・ネットワーク」を組織し、基 本構想時のまちに開き記憶を孕んだ計画がほぼ そのまま実現した。基本設計から山下設計とJV、 実施設計・監理はデザイン監修を行った

2017/11/8

41

	仙台市西口駅前広場景 観整備基本設計:計画技 術研究所委託業務 都市景観整備計画 1991.7~1993.3 宮城県仙台市	仙台市の表玄関である駅前広場のこれからの状 況をふまえた景観整備に係わる調査・基本設計。 面出薫氏や藤江和子氏等と共同した
	青葉通景観整備基本計 画:計画技術研究所委託 業務 都市景観形成計画 1992.3 宮城県仙台市	仙台都心のメインストリートである青葉通の全長に わたる景観整備に係わる、基本計画の策定。音、 色、植生、光、道具等の各要素に先端的専門家と 共同して、全体をとりまとめた
	大分県アメニティタウン構 想(湯布院町担当) 地域開発構想 1990~1992 大分県湯布院町、鶴見 町、山国町	平松知事の「過疎」に対する「適疎」という概念で 生まれた「アメニティタウン構想」に基づき、磯崎新 (総括)、簗原敬(コーディネーター)両氏の下で、 新居千秋、栗生明と岩村和夫の三名が総合的な コンセプト策定と、分担した県内の3町に対して具 体的な提案を行った。岩村は湯布院町を担当した

2017/11/8

42

	札幌芸術の森アートビレッジ開発計画・実施設計 地区開発計画 1989.4～1991.3 北海道札幌市	札幌市南端における産業・アート・環境の一体化を図るコーポラティブ型企业団地開発の企画・計画・設計の実施(1991.3竣工)
	ファッションドーム141 都市デザイン委託業務 市街地再開発 SRC/8F 1987.3 宮城県仙台市	市の婦人文化センターを合築した商業型再開発ビル。民間の市街地再開発事業の現地調査から基本構想、基本計画、基本設計の過程でソフトとハード両面で主体的に参加し、大規模で複雑な事業のなかで、基本コンセプトをまちづくりから建築設計に至るまで貫くことのできた希有な事例 ★第1回日本SC大賞2004銀賞
	泉市中心市街地地区建設計画 都市デザイン委託業務 地区計画 1981.3 宮城県泉市	泉市(現仙台市泉区)土地区画整理事業による中心市街地の地区計画による建設誘導計画の策定。わが国で最大規模の地区計画

2017/11/8

43

	松本市六九地区市街地再開発事業基本計画 都市デザイン委託業務 市街地再開発 1981.3 長野県松本市	老朽化した松本市中心市街地の商店街地区再開発計画のコンセプトづくりから、基本構想および基本計画の策定

2017/11/8

44



2. 岩村アトリエの主な実績

2-5. アート作品

アーティスト: 岩村寛人

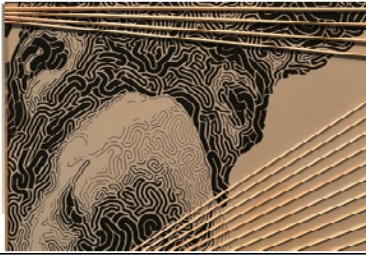
2017/11/8

45

	スターバックス・コーヒー インターシティAIR店舗 壁画アート 2017.9 東京都港区	赤坂インターシティAIR1F新規店舗内壁画の企画・制作(担当: 岩村寛人)
	スターバックス・コーヒー 東京ミッドタウン店 壁画アート 2017.5 東京都港区	東京ミッドタウン1F改装店舗内壁画の企画・制作(担当: 岩村寛人)
	Klein Dytham Architecture事務所 壁画アート 2017.7 東京都渋谷区	岩村寛人が以前所属していた建築設計事務所クライン・ダイサム・アーキテクチャー内の壁画の企画・制作(担当: 岩村寛人)

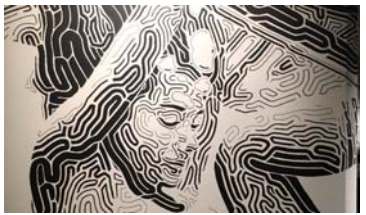
2017/11/8

46

	ASHI TEISHOKU & DINER 店舗 壁画アート 2017.6 東京都台東区	台東区駒形にある飲食店舗内の壁画企画および制作(担当:岩村寛人)
	スターバックス・コーヒー 原宿店 壁画アート 2017.3 東京都渋谷区	REN原宿店1F改装店舗内の床・壁・天井画の企画・制作(担当:岩村寛人)
	ナイキ原宿本店 壁画アート等 2017.2 東京都渋谷区	ナイキAIR販売20周年記念のための店舗内特別展示の企画・制作(担当:岩村寛人)

2017/11/8

47

	スターバックス・コーヒー 蔦屋書店中目黒店-2 壁画アート 2016.11 東京都目黒区	中目黒高架下1F店舗(書店および喫茶店)内壁画5面の企画・制作(担当:岩村寛人)
	スターバックス・コーヒー 蔦屋書店中目黒店-1 壁画アート 2016.11 東京都目黒区	中目黒高架下1F店舗(書店および喫茶店)内壁画5面の企画・制作(担当:岩村寛人)

2017/11/8

48



2. 岩村アトリエの主な実績

2-5. コンサルティング(過去5年間)

調査・研究・監修 等

2017/11/8

49

環境共生住宅推進協議会の調査研究部会活動等の検討業務(継続) 2017.9 環境共生住宅推進協議会(kkj)	環境共生住宅推進協議会の調査研究部会活動等の検討
シックハウスの発生予防対策の取り組みに関する調査と関連動向調査業務 2017.7 住宅リフォーム推進協議会	供給者へのアンケート・ヒアリング調査シックハウス問題の動向調査
地域型住宅グリーン化事業に関する普及展開のためのアンケート調査業務(継続) 2017.10 環境共生住宅推進協議会(kkj)	ゼロエネ住宅物件の実績について、事例調査および、優良事例の抽出により、報告書データの作成を行う
玉川学園省エネ法自治体地球温暖化対策条例への対応支援業務(継続) 2017.9 西松建設	町田市玉川学園内のエネルギー消費量の把握、整理、各自治体への届出書作成
玉川学園キャンパス緑地調査業務(継続) 2017.9 西松建設	町田市玉川学園内における既存樹木の毎木調査

2017/11/8

50

プレハブ建築協会・環境分科会まちなみWG 検討推進業務(継続) 2017.4 プレハブ建築協会	境界内環境分科会まちなみWGの調査研究部会活動等に係る検討及び関連作業
プレハブ建築協会・エコアクション2020検討推進業務(継続) 2017.5 プレハブ建築協会	エコアクション2020の推進に係る検討及び関連作業
立体シンポジウム「環境とすまい・まち」制作とホームページの制作業務(継続) 2017.10 住宅生産団体連合会	住団連主催の立体シンポジウム「住宅・すまいWebページ」で岩村がプロデューサーとして担当している「住まいと環境」のコンテンツの企画および更新他
環境共生住宅部品に係わる情報発信・普及推進及びその他検討業務(継続) 2017.7 環境共生住宅推進協議会(kkj)	環境共生住宅のモデル的な設計例の検討、認定基準の改定に関する要望、環境共生住宅設計ガイドの作成準備等
スマートウェルネス住宅研究企画委員会エネルギー・情報・設備システム部会検討支援業務 2016.12 日本サステナブル建築協会	スマートウェルネス住宅におけるエネルギー・情報・設備システムの在り方の検討

2017/11/8

51

住宅系・及び建築系CASBEEツール拡充整備に関する調査(継続:その4) 2016.7 日本サステナブル建築協会	住宅系・及び建築系のCASBEEツールを拡充整備する作業にともなう各種調査
長山荘再開発事業企画・基本構想作成業務(大阪府豊中市上野西) 2016.10 O氏	長山荘に係る再開発等の前提条件の整理、情報収集、市との事前相談、基本構想提案等のとりまとめ、および定期定例会議の運営
白楽ハウス大規模改修・耐震改修工事のアドバイス等に関する業務 2016.7 白楽ハウス管理組合	築46年の白楽ハウス管理組合の必要に応じて、改修工事に関する委員会・住民説明会等に出席し、適宜アドバイスをおこなう(横浜市補助金対象)
良好な温熱環境実現のための実測調査に係る対象住宅の断熱性能確認業務 2016.3 ベターリビング	水回りを中心とした改修によって良好な温熱環境を確保するための工法および指標の検討
ミサワホームにおけるLCP診断表作成業務 2016.7 ミサワホーム	ミサワホーム商品におけるLCP(生活継続計画)基本方針の検討およびLCP診断表の作成

2017/11/8

52

中国瑞昌市MOLEVA国際建築設計競技に関 わる企画・運営業務 2014.10～2016.8 華嚴文化投資集団(中国、北京)	中国瑞昌市で開催された国際建築家連合(UIA)認定国際建 築設計競技「MOLEVA」の企画・運営に関する、総合的なコン サルティング
Mスマートシティ熊谷環境共生住宅団地認定 申請支援業務 2013.10 環境共生住宅推進協議会(kkj)	Mスマートシティ熊谷の環境共生住宅団地認定申請に係わ る各種の支援作業
平成25年度省エネルギー基準非住宅建築物 講習会テキスト作成補助業務 2013.10 日本サステナブル建築協会	非住宅建築物に対する平成25年度省エネルギー基準改訂に 伴う講習会用テキストの作成補助
日独住宅・建築物環境対策調査委員会補助 等業務 2013.11 日本サステナブル建築協会	日本とドイツにおける住宅・建築物の環境対策の比較調査を 目的とする委員会の補助
健康長寿住宅リフォームエビデンス取得に関 する調査に係わる実証補助業務 2013.9 ベターリビング	健康長寿化を目的とする、被験者住宅の断熱改修工事仕様 の把握と実施内容のまとめ

2017/11/8

53

国内外における建築環境の総合性能評価手 法に関する文献等資料調査業務 2013.1 日本サステナブル建築協会	CASBEE英文出版物に係わる文献等の資料収集、およびその 結果の編集、英文化
木造住宅の外装仕上げ等に関する情報収 集・整理等業務 2012.8 住宅リフォーム・紛争処理センター	木造住宅における外装仕上げ等に関する最新情報の収集・ 整理
「明治学院大学横浜キャンパスにおける自律 型エネルギーの構築について」の答申作成 2012.1 明治学院大学	明治学院大学横浜キャンパスにおける、自律型エネルギー 供給システムの構築に向けた現状分析および提案に関する 答申の作成
住宅のエネルギー消費性能の評価のための 評価ソフトに関する業務 2011.8 日本サステナブル建築協会	住宅のエネルギー消費性能を評価するための評価ソフト作 成に関する各種業務
既存UR賃貸ストックにおける環境配慮型ライ フスタイル設計に係る基礎資料作成業務 2012.1 URリンケージ	膨大なURが管理する賃貸ストックにおける、環境配慮型ライ フスタイル設計に係る基礎資料の作成

2017/11/8

54



2. 岩村アトリエの主な実績

2-6. 代表的作品パネル

住宅・建築・まちづくり 等

- 1) 岩村邸（East in West）：ドイツ、カッセル市
- 2) ファンハウス札幌スタジオ：北海道札幌市
- 3) いわき風舎村センターハウス：福島県いわき市
- 4) 世田谷区深沢環境共生住宅：東京都世田谷区
- 5) うつくしま未来博福島県 21 世紀建設館：須賀川市
- 6) 屋久島環境共生住宅ヴィビレッジ：鹿児島県屋久町
- 7) 望楼の家：埼玉県美里町
- 8) 神戸ドイツ学院／ヨーロッパン・スクール：兵庫県神戸市
- 9) 緑の丘のターミナル（計画案）：東京都渋谷区
- 10) 4G HOUSE（NEXT21 404 号室）：大阪府大阪市
- 11) The Meta-Sand Spiral（計画案）：エジプト、ギザ市

1)

岩村邸 (East in West)

カッセル・エコロジー団地内に立つ木造戸建て住宅

Kassel, Germany

ドイツ、ヘッセン州カッセル市は、1991年の東西ドイツ再統一前後でドラスティックな変化を経験した。国境が近かった同市では、再統一前低い人口密度による問題を改善するため、若い層の住宅を優先的に支援する政策を展開していた。本団地はそれによって実現したが、現在はドイツの南北・東西を走る高速鉄道の交点に位置し、逆に開発を規制する状況を迎えている。

カッセル・エコロジー団地は、これらを背景として、1980年初頭に早くも持続可能な未来を見据えた、環境に配慮した健康な住環境が不可欠と考える若い仲間が立ち上がり、共同の結果実現した。建築家を中心とする彼らは、まず基本的な居住環境の目指すべき姿を共有し、それを実現するための30項目に及ぶ「エコロジー団地カタログ」を作成した。同市は同計画を支援の対象として採択し、市有地を分譲してカタログの内容を地区詳細計画(B-プラン)に反映しながら、エコロジー団地の建設を支援した。その骨子は、1970年代からドイツ圏で頻りに議論されてきた「パウビオロジー(建築生物学)」を出発点とする、エコロジカルな居住環境の実践であった。

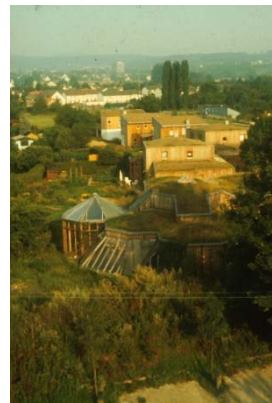
団地の第1期は、今ではドイツの環境建築のリーダーとして著名なM.ヘッガー教授とG.ミンケ教授の指揮の下に実現した。彼らと親しい岩村夫妻は、このプロジェクトに参加し、計画・設計要綱に従って団地内の一画に自邸を建設することになった。その後、この「持続可能な開発」という時代思潮を先取りした、ユニークな住宅団地建設の参加型プロセスや手法を通じて、実に多くを学び経験することができた。

パッシブなグリーン建築のパイオニアとして、本団地は既に30年を超える熟成の年月を数えた。自邸も竣工後25年が経った。その間、良かれ悪しかれ、様々なコミュニティとしての問題に直面してきたが、その度に議論し合う原則が生かされ、乗り越えてきた。私たち住人は、今ではすっかり緑に覆われた優れた物理的環境だけではなく、こうした社会的環境の側面も合わせて享受している。

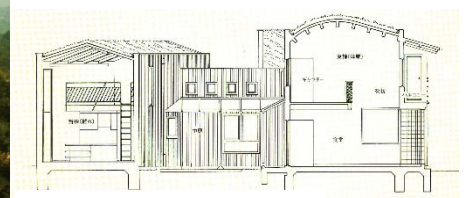
岩村和夫



北側立面



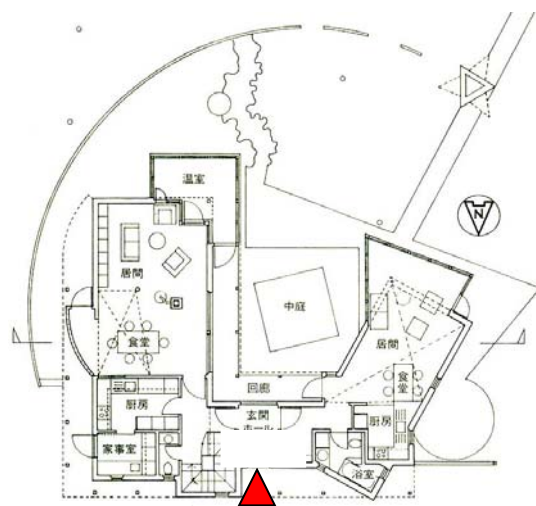
カッセル・エコロジー団地俯瞰



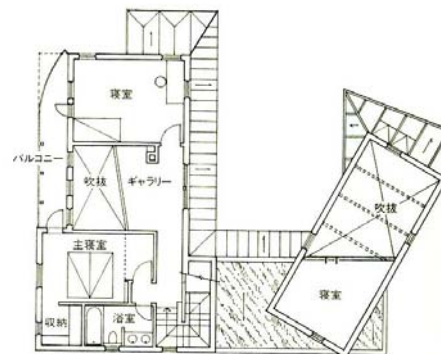
東西断面図



母屋居尼



1階平面図



2階平面図



離れ(スタジオ)

建築概要

- 名称: 岩村邸 (East in West)
- 所在地: Am Wasserturm, Kassel, GERMANY
- 計画・設計期間: 1989~1990
- 竣工: 1991年7月
- 敷地面積: 769m²
- 延べ床面積: 217m²
- 付帯施設: Biotope Garden
- 計画・設計: (株)岩村アトリエ+ HHS



住民同士の話し合い



IWAMURA Atelier Inc. www.iwamura-at.com

2)

ファンハウス札幌スタジオ

北の自然の中のリゾート滞在型録音スタジオ

Sapporo, JAPAN

札幌市は1986年以来その南区に新たなタイプの学校を含む市民のための広大な「芸術の森」を整備してきた。その南端に関連する産業を誘致するためのゾーンが開発されることになり、1989年幸いにもそのマスタープランの計画・設計を我々が担当することになった。また、そこに二つの施設、「ハドソン中央研究所」と「ファンハウス札幌スタジオ」が誘致され、その設計も委任された。

ここに示す後者はこの種の施設としてはユニークで、第一級の録音スタジオと自然の中で短期から長期までの滞在が可能な多様で充実した宿泊機能からなる。この場所の選択は、北海道をこよなく愛したレオナルド・バーンスタインのアドバイスによるものであった。その主な特徴は以下の通りである。

村落のような施設構成：

自然の中の起伏のある同敷地の特性を生かし、施設全体を分節化して地理・地形になじませることによって、利用者がその自然環境を楽しみながら、村落のような施設での滞在期間中音楽の創造に集中できることを目指した。

第一級の録音スタジオ：

海外の優れた事例の視察を含め、クライアント（ファンハウス）と経験豊富な音響設計専門業者（日東紡音響）との濃密な共同によって、第一級の録音スタジオが計画・設計された。巨大な調整卓はかつてローリング・ストーンズが使用したものだが、スタジオの内部仕上がりには多彩な木材と地域産材である札幌軟石が多用された。

多彩な宿泊・滞在施設：

本スタジオは立地環境から利用者の多様な要求に応えられる多彩な宿泊施設が用意されている。また、快適な滞在を支援する大きな暖炉を中心とした談話室・食堂、広い和風浴室、プレイ・ルームなどがある。

なお、オーナー（新田和長氏）が親しい、元ビートルズのプロデューサーとして著名な、ジョージ・マーティン夫妻がオープニングに遠路駆けつけて下さった。

岩村和夫



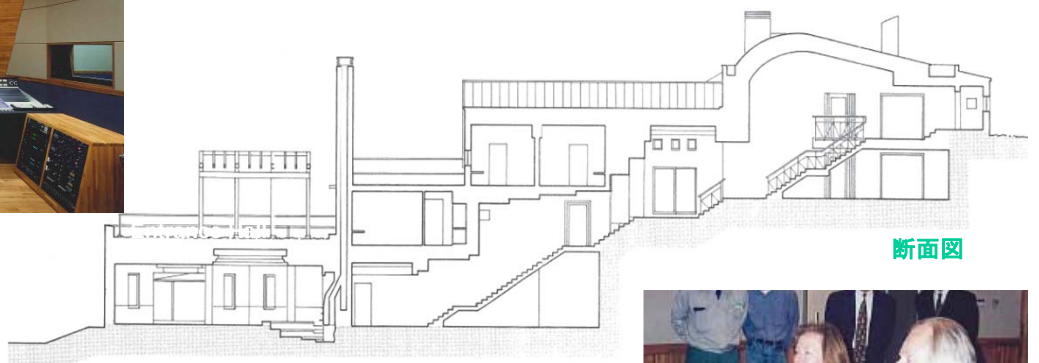
東側立面



屋上庭園



録音・調整室



断面図

建築概要

- 名称: ファンハウス札幌スタジオ
- 所在地: 芸術の森, 札幌市, 北海道
- 計画・設計期間: 1991~1992
- 竣工: 1993年3月
- 敷地面積: 5,000m²
- 延べ床面積: 1,924m²
- 計画・設計: (株)岩村アトリエ



ジョージ・マーティン夫妻



IWAMURA Atelier Inc. www.iwamura-at.com

3)

いわき風舎村 センター・ハウス

Iwaki, JAPAN

いわきニュータウンのランドマークとしての木造緑化建築とビオトープ

福島県浜通りのいわき市には、当時の地域公団が開発した大規模な工業団地と「いわきニュータウン」がある。1990年代に入り、後者の新たな開発コンセプトに時代の要求を先取りし、環境に配慮した環境共生型の居住環境の整備を取り入れることとなった。そして、「風舎村」と名付けた戸建住宅のモデル展示場とセンター・ハウスの建設が決まった。

その計画・設計が委託され、全体のマスタープランと展示場に関する情報提供と管理を行うセンター・ハウス、および一棟のモデル住宅を担当した。日本における公的機関による環境共生型の開発としては初期の事例である。民間の住宅供給事業者は開発・設計要綱に従い、中央のビオトープ・ガーデンを囲むようにモデルハウスを建設した。

本センター・ハウスは在来構法と伝統構法をミックスした木造建築で、曲線を描く屋根は景観と温熱環境の緩和に貢献するように全面的に野芝で緑化した。また、屋根の上には昼光利用と自然換気のためにそれぞれ「光楼」と「風楼」を設置した。こうした特徴的なデザイン要素はニュータウンの新たなランドマークを生み、日本の伝統建築とインテグレートされた持続可能な未来の一つの姿を明示している。

以上のような考え方で作られた風舎村は大勢の訪問者を集め、以降のニュータウン開発に大きな影響を及ぼした。それを反映し、数年に及んだ展示場の開催期間後、本センター・ハウスはニュータウン内の一角に曳家によって移転された。

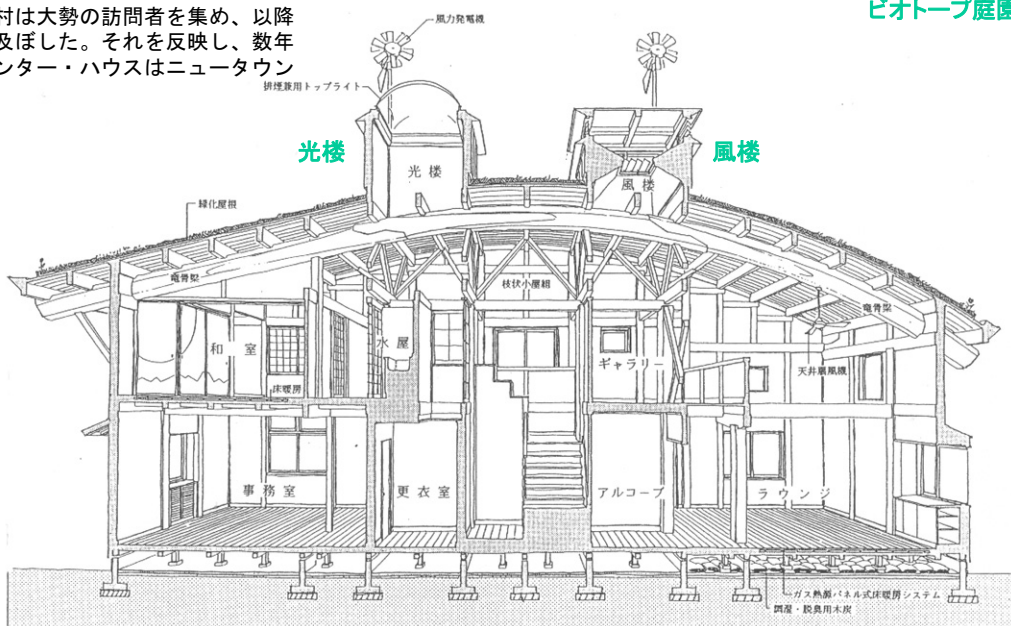
岩村和夫



ビオトープ庭園



内部光楼見上げ



断面パース

緑化屋根



南側立面

建築概要

- 名称: いわき風舎村センターハウス
- 所在地: いわき市福島県
- 計画・設計期間: 1993
- 竣工: 1994年10月
- 敷地面積: 15,100m²
- 延べ床面積: 185m²
- 付帯施設: Biotope Garden
- 計画・設計: (株)岩村アトリエ
- 構造設計: 宮坂公啓



IWAMURA Atelier Inc. www.iwamura-at.com

4)

世田谷区深沢環境共生住宅団地

Tokyo, JAPAN

持続可能な未来を見据えた、戦後の公営住宅建て替えプロジェクト

東京都と世田谷区は、戦後の住宅供給政策の一環として約7,400㎡の敷地に1952年に建てられた39戸の公営住宅を建て替えることを決めた。新たな住宅団地は70戸の住宅と多様な付帯施設を擁する「環境共生住宅」の区営モデル団地として計画・設計されることになった。

本計画の目的は、建て替えのプロセスを通じて①地球環境の保全に寄与し、②地域環境との調和を諮り、③快適で健康な居住環境を創出することであった。そして、その敷地に育まれた豊かな緑を歴史的資源として尊重し守ることは、本プロジェクトの中心的課題の一つであった。また、環境への負荷を増大させることなく敷地内外の生活の質を高めるとともに、公営によるアフォーダブルな住居数の増大が求められた。従って、本住宅団地の設計・建設には地域の自然と条件に関する深い理解に基づく環境共生住宅団地としての配慮がなされ、太陽熱利用やパッシブな昼光利用、暖房・冷房システムなどが導入された。

住戸の類型については、ここに新たなミックス・コミュニティを創出することが目標とされ、標準的な公営住宅とともに、障害者用住戸、高齢者用住居、中間所得者向け住居などが併設された。当初はそれ故のトラブルもいろいろあったが、今年の4月には早くも18周年を迎えた。そして、その熟成過程を通して今日の東京ではめずらしい緊密なコミュニティの形成を見て取ることができる。

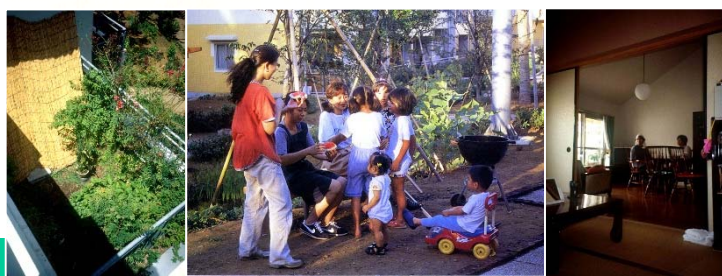
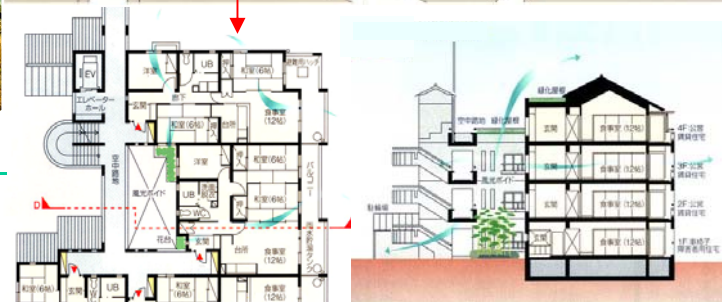
住民自治会は竣工以来ボランティアをベースに機能し、問題が発生した時の解決に向けた議論の場となるばかりでなく、団地の清掃、廃棄物の処理、共用部分の維持管理等の当番、共同を組織化してきた。計画・設計時のプロセスに住人参加が実現したことが、その意識を高めたことは言うまでも無い。

国のパイロット・プロジェクトとして実現したこの団地は、様々なレベルでの注目を集めて議論を呼び、国内外の賞（World Habitat Award 2002 等）を受賞した。

岩村和夫



ビオトープを抱える中庭 (1997年竣工直後)



建築概要

- 名称: 世田谷区深沢環境共生住宅団地
- 所在地: 東京都世田谷区深沢4丁目
- 計画・設計期間: 1993~1995
- 竣工: 1997年3月
- 敷地面積: 7,388㎡
- 延べ床面積: 6,200㎡ (住居: 5,537㎡ + デイ・ホーム: 594㎡ + 集会場: 69㎡)
- 住戸数: 70戸 (標準公営住宅: 40戸, 障害者用住宅: 3戸, 高齢者用住宅: 17戸, 中間所得者用住宅: 10戸)
- 付帯施設: 区営デイ・ホーム, 集会場, 高齢居住者用団欒室, 公開空地 等
- 総工費: 約20億円
- 計画・設計: 世田谷区+ 市浦建築都市設計/ 岩村アトリエ JV



IWAMURA Atelier Inc. www.iwamura-at.com

5)

うつくしま未来博 福島県21世紀建設館

Fukushima, JAPAN

常設利用のために移設可能な木造構造体によるパビリオン

福島県は首都東京の北に位置し、自然とアクセスに恵まれていることから、「森に沈む都市」と命名して以前から首都機能の一部移転先として名乗りを上げてきた。この県の施策を推進するため、2001年の夏に「うつくしま未来博」と称する博覧会が起伏のある須賀川市の森の中で開催された。ここに示す木造建築は、一義的にはその暫定的なパビリオンとして計画・設計されたものである。

そのような条件に基づき、我々は県の代表的パビリオンとして周辺の森と棚田の景観に融け込むような木造建築を提案し、同時に設計当初から博覧会終了後は永続的な利用に供する施設として移設可能な構造体を持つ、持続可能な建築システムをデザインした。

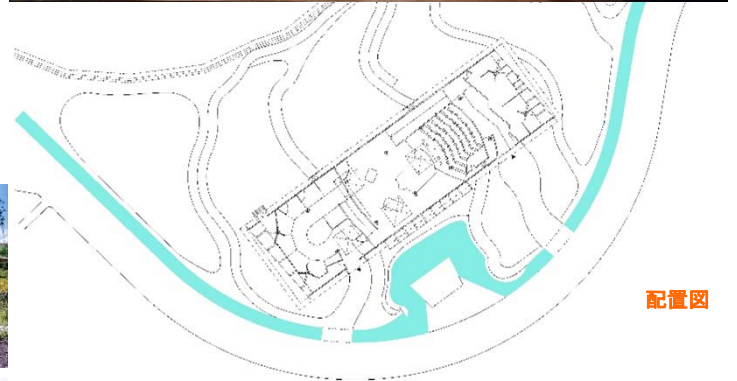
段々状の敷地の一部を覆うように緩やかなアーチ曲面を描く屋根はグリッド状の木構造を持ち、着脱可能な緑化パレットで全面が覆われている。その結果、本パビリオンは展示で示した「森に沈む都市」のイメージを建築的に表現することができた。パッシブなグリーン建築の効果をさらに徹底させるために、自然換気によるエネルギー効率の高い室内環境や自然素材を多用した仕上げ、そして屋根および外壁の緑化、外構のビオトープ等により、環境負荷の緩和に努めた。博覧会開催期間中は、このようなユニークなパビリオンの中で、関連する多彩な展示や発表が繰り広げられた。

特別にデザインした樹木状柱の構成材や金属製のジョイントはすべて解体・再利用ができるように計画され、博覧会後に別の場所への移築を可能とした。2002年3月には福島空港に隣接する公共施設のセンター・ハウスとして移築が完了した。

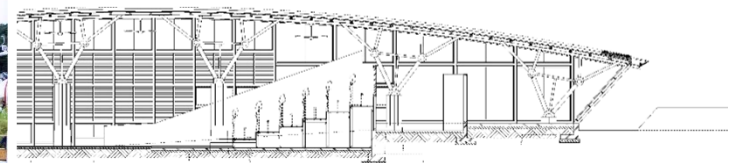
岩村和夫



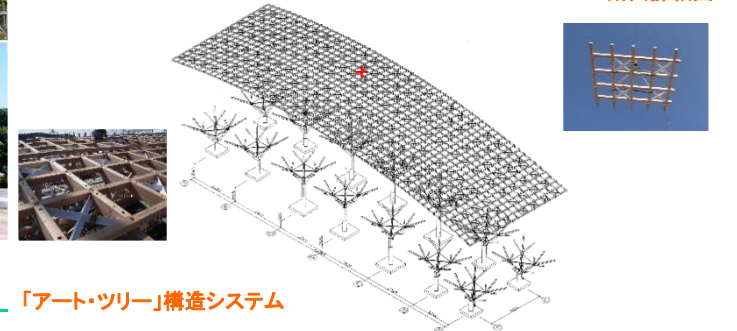
博覧会開催時の内観



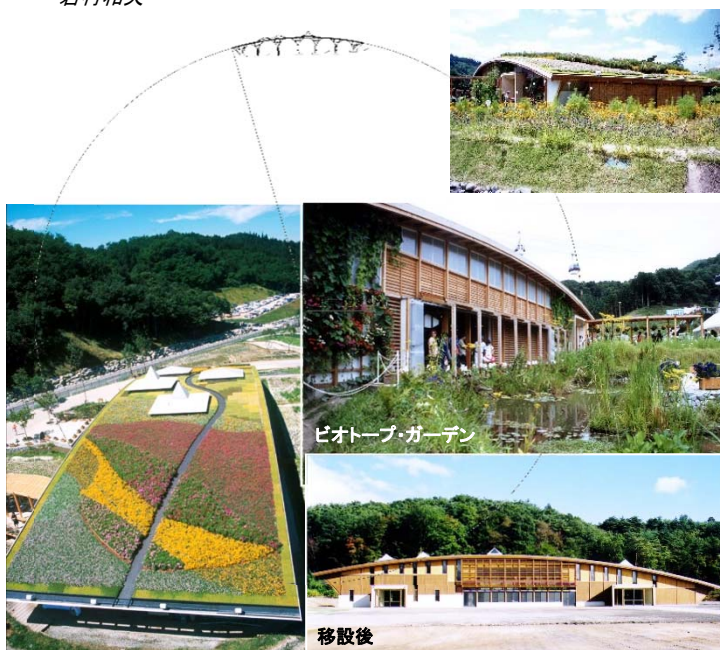
配置図



断面詳細図



「アート・ツリー」構造システム



ビオトープ・ガーデン

移設後

建築概要

- 名称: 福島県21世紀建設館
- 所在地: 福島県須賀川市
- 計画・設計期間: 1998~2000
- 竣工(博覧会時): 2001年5月
- 区画面積: 1,000m²
- 延べ床面積: 661.0m²
- 付帯施設: Biotope Garden
- 計画・設計: (株)岩村アトリエ
- 構造設計: TIS Partners Co., Ltd.



IWAMURA Atelier Inc. www.iwamura-at.com

6)

屋久島環境共生住宅ヴィレッジ

Kagoshima, JAPAN

亜熱帯の世界自然遺産島に生まれた、木造の環境共生公営住宅団地

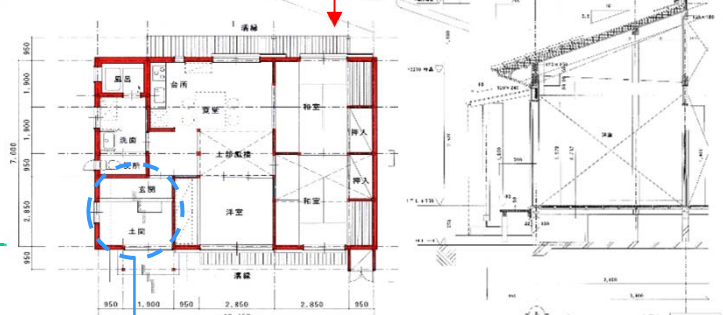
世界自然遺産に登録されている屋久島は、別名「洋上のアルプス」と呼ばれている。本計画はその北東に位置する集落、宮之浦の外れに、島内に不足している公営住宅を50戸建設しようというものだ。同時にその住宅は鹿児島県が推進する地域適合型の「南の家」のモデルとなるべきものとして位置づけられた。敷地は眼前の海と背後の山（前丘）に挟まれた海岸段丘上にあり、その自然立地特性である亜熱帯特有の大量の雨量と豊かな植生を生かすことが、計画・設計上のポイントであった。

プレ・デザイン段階の調査から発見された知見を基に様々な事柄を学んだが、特に現存するバナキュラーな集落からは実に多くの魅力的な解法を知ることができた。ここでの大きな目標は、地域性に適合した木造平屋の新たな集落を生み出すことであり、エネルギーと資源の問題の焦点を当てながら、居住環境の熟成課程で近隣コミュニティの活動に寄与する多様なコモン空間を計画した。また、供用開始後はポスト・デザインとして大学の研究室を拠点に事後検証を繰り返し、多くを学ぶことができた。

主な設計上の工夫は以下の通りである：

- ＞かつて海岸段丘を覆っていた森の再生を図るために、緑のネットワークの拠点とする
- ＞材木や石材のような地域産材を用いて、住まいと団地を作る
- ＞元来の地勢の特徴を尊重し、美しいヴィレッジと周辺環境の景観を創出する
- ＞住人による自発的な住まいと団地の育成管理がしやすいように設計を工夫する
- ＞頻発する台風や大雨、塩害、白蟻等の被害に対処できるようインフラや住宅を工夫する
- ＞シンプルな木構造をベースに、そのコンビネーションで多様な住戸タイプを供給する

岩村和夫



建築概要

- 名称: 屋久島環境共生住宅ヴィレッジ
- 所在地: 鹿児島県屋久島町宮ノ浦
- 計画・設計期間: 1998~2000
- 竣工: 第1期/2000年11月, 第2期/2006年11月
- 敷地面積: 19,750m²
- 延べ床面積: 3,967m²
- 住戸数: 50戸(県営住宅: 24戸 + 町営住宅: 26戸), 在来木造住宅
- 付帯施設: 集会場, 中央広場, 中央モール, バイオ・ガーデン, コモン、カーポート 等
- 計画・設計: 鹿児島県 + 岩村アトリエ./ 鹿児島県設計事務所共同組合 JV



IWAMURA Atelier Inc. www.iwamura-at.com

7)

望楼の家

田園環境に建つ、健康と快適性を主テーマにした木造週末住宅

Saitama, JAPAN

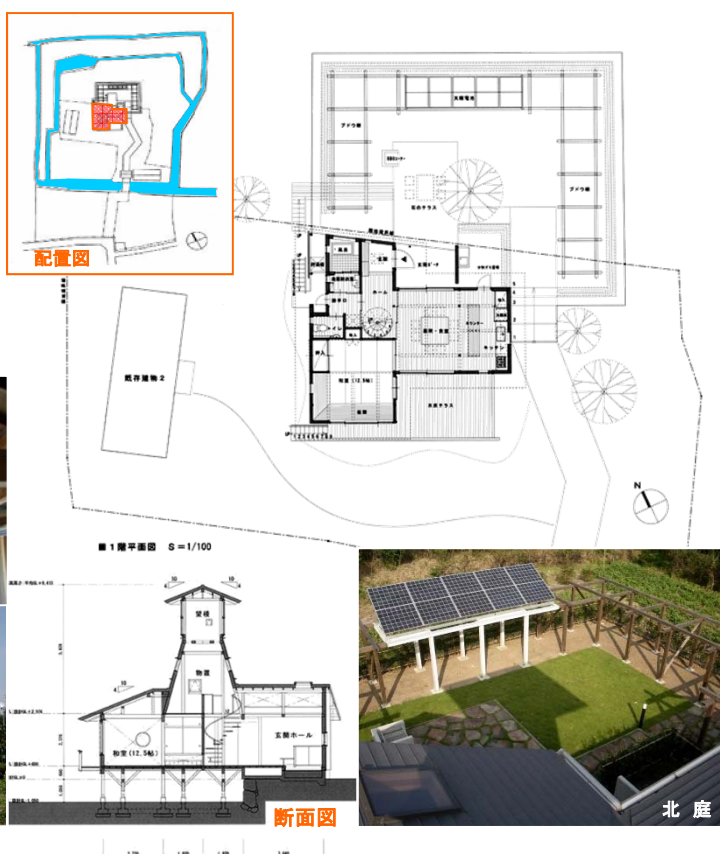
環境に配慮したデザインの多様なヒントが埋め込まれたその場所を隈無く調べ上げること、これは想定を超えて実に楽しい作業だ。「望楼の家」の設計は、そのような機会を我々に与えてくれた。豊かな田園環境に恵まれ、旧家の所有する例外的に広く、屋敷林、掘り割り、中央の石垣で守られた基壇、などといった豊かな資源を有する敷地は、こうした既存の要素を尊重し保存することを可能とし、新たに再編成する住環境に取り込まれた。

この住まいのオーナーは高齢の医師であり、設計にあたって我々に主として次のような依頼をされた；①一人で周辺の田園風景を愛でながら好きな読書ができ、この住宅の最もシンボルとなる望楼、そして②最良の室内空気質を生む自然換気、安全な建材等の採用によって総合的に健康な住まいを創出すること。小ぶりの塔がこの二つの目的を満たし、近隣にとってのランドマークとなるようにデザインされた。

望楼をヒート・チムニーに見立て、重力換気の効果を最大限に発揮させるために、上部と下部に開口部を注意深く設け、新鮮な空気が家の内部を縦横に巡るようした。また、より良い温熱環境を室内に作り出すため、適度な断熱と気密性を確保することは重要なポイントである。この住宅では充填断熱に壁の内部に繊維状のPETリサイクル材を吹き込む工法を採用した。そして、設備機器、照明機器群、給湯ボイラーはそのエネルギー効率に従って選択した。

体と心の健康は、オーナーの最優先課題であった。我々はほぼ全ての建材・部材のMSDS（材料安全データ・シート）を製造販売業者から取り寄せ詳細にチェックするとともに、住み手の健康のために24時間換気を行っている。さらに重要なのは、竣工後のメンテナンスである。暮らしのアメニティや快適性、さらに住まいの長期耐用性でさえも、住まいとそこに暮らす人々との関係性に依存し、そこに長く住みたいと思う動機と気持ちが不可欠である。そのような関係を支援するために、我々は当該住宅に関するあらゆる情報を、一冊の「住まい方ブック」にまとめ、オーナーに手渡すことにしている。その中には総合的な環境性能を評価できる「CASBEE戸建て」による評価結果（Sクラス：★★★★★）も含まれている。

岩村和夫



建築概要

- 名称: 望楼の家
- 所在地: 埼玉県美里町
- 計画・設計期間: 2005~2006
- 竣工: 2006年8月
- 敷地面積: 978m²
- 延べ床面積: 84m²
- 付帯施設: 北庭
- 計画・設計: (株)岩村アトリエ



住まい方ブック

■設計の工夫やメンテナンス等を解説した「住まい方ブック」

CASBEE 評価結果

項目	評価	基準値	達成率
エネルギー消費量	★★★★★	1.0	100%
室内環境	★★★★★	1.0	100%
環境負荷	★★★★★	1.0	100%
総合評価	Sクラス	1.0	100%

※CASBEE 2006 戸建て住宅用



IWAMURA Atelier Inc. www.iwamura-at.com

8)

神戸ドイツ学院／ヨーロッパンスクール

Kobe, JAPAN

太陽学舎：持続可能な木造校舎のモデル

神戸市の市有地である敷地は、同市によるこれまでの都市開発の中でも屈指の一つである「六甲アイランド」の中央に位置している。神戸市は1995年に起きた阪神淡路大震災の悪夢を乗り越え、「エコ・シティ」を目指して様々な取り組みを展開してきた。

こうした背景は、比較的小規模な学校を建設する本事業にとっても非常に重要な意味を持った。そのルーツに早くから先進的な環境政策を取ってきたドイツ、ヨーロッパの文化を持つ本学にとって、百周年を機会に建て替える主な目的が、省エネルギー、ライフスタイル、及び教育の観点から、高度に環境に配慮した学校建築を実現することであったからである。

ドイツ領事館が支援したプロポーザル方式によって、我々岩村アトリエが選ばれたことは大変名誉なことであったが、その時の提案の骨子は、以上の背景から「太陽学舎（たいようのまなびや）」とも呼ぶべき、太陽の恵みを最大限に活かした新たな「環境共生建築」をデザインし実現することであった。この取り組みは、竣工後に国土交通省が主催する補助事業「2008年住宅建築物省CO₂先導モデル事業」に第1号として採択されることになる。

以上を実現するために、我々は設計の必要条件を読み解く前に、いつものようにまず敷地および周辺地域の調査を徹底的に行い、その特性の発見に努めた。その上で、木造校舎のモデルとなるべき低負荷型で、未来の担い手である子供達にとって真に健康な環境の創出に最大の努力を費やした。この取り組みが、やがて対象地域の地域文化や景観が熟成する課程で、神戸市の社会的資源となることに寄与するはずである。

同校の供用開始後以来、独自に開発したEMLS（環境モニタリング&表示システム）によって建物の環境実性能を継続的に実測・集計しその結果を報告書にまとめるとともに、そのプロセスを同校での環境教育に活用している。

Kazuo Iwamura



西側立面



断面図

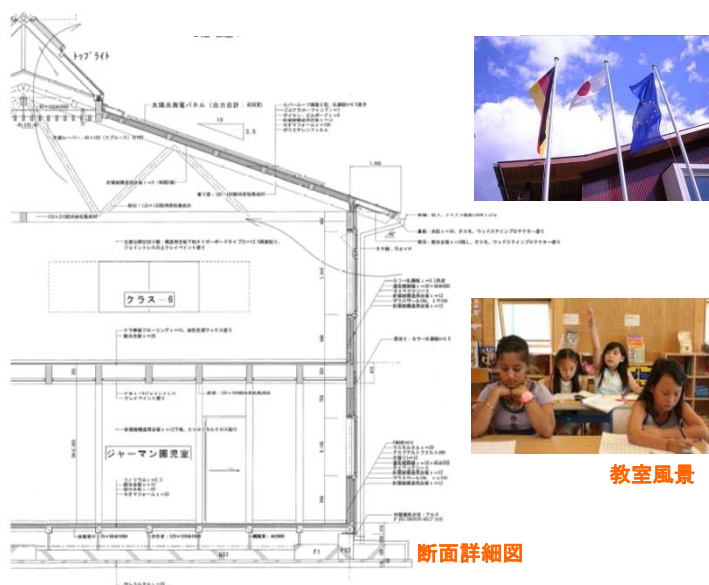


2階中央廊下



玄関ホール

トップライト

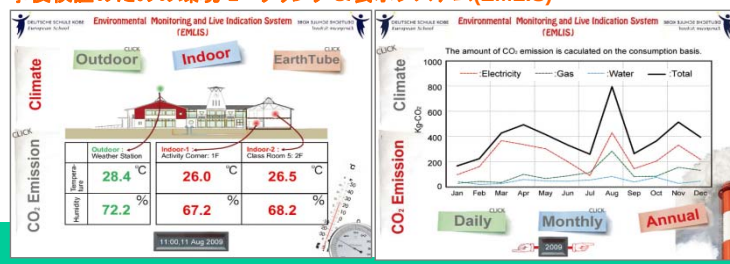


断面詳細図

建築概要

- 名称: 神戸ドイツ学院／ヨーロッパンスクール
- 所在地: 神戸市東灘区六甲アイランド
- 計画・設計期間: 2007年12月～2008年11月
- 竣工: 2009年7月
- 敷地面積: 2,193 m²
- 延べ床面積: 1,503 m²
- 付帯施設: コーナー・パーク
- 計画・設計: (株)岩村アトリエ
- 構造設計: TIS Partners Co., Ltd..

事後検証のための環境モニタリング&表示システム(EMLS)



IWAMURA Atelier Inc. www.iwamura-at.com

9)

緑の丘のターミナル(渋谷プロジェクト2050)

都市空間の改造バックキャスティング計画案

Tokyo, JAPAN

「バックキャスティング(逆予測)」とは「フォーキャスティング(予測)」と対になる概念として指摘されるテクニックである。それは、ある特定の未来のシナリオを描き、その基となる考えをトレースしながら現在に戻る発展の時間軸を逆に辿ることを意味する。その行為は、まずある非常に限定され、独特な未来の状況に関して記述することから始まる。そして、一步一步想像上で時間軸を未来から現在に逆に戻りながら、必要と思われるだけ多くの段階を描くことである。こうしてある特定の未来を現在から手に入れる、そんなメカニズムを明らかにすることができる。

「渋谷プロジェクト2050」は、東京で最も集客力のあるターミナルの一つである、渋谷駅周辺地区の将来の都市イメージをバックキャストするために我々が描いたものである。その主な特徴は次の通りである。

以下による、過去の記憶を抱く未来の都市空間

①谷を覆う「緑の丘」とも言うべきシンボリックなターミナル空間を創出する

②いくつもの広場や中庭を内包させる

③巨大な丘によって多様な交通システムを互いに連結する

以下による、水系と親水空間の復活

④渋谷のアーバン・エコロジーと元来の都市景観を再現する

⑤河川と親水空間を再生する

⑥地下水を循環させ、微気候を改善する

以下による、地域の緑資源と連結した緑の拠点化

⑦地域の水と緑の資源を連結する拠点を創出する

⑧都市のヒート・アイランド化と騒音を緩和する、巨大な緑の丘をつくる

⑨かつてのお茶畑とお花畑を復活させる

以下による、ユニークな都市景観の創出

⑩地勢上窪んだ谷地を、広場や中庭を内包する緩やかな曲面の「多孔質な丘」で覆う

⑪巨大なソーラーパネルを戴く屋根で覆われた、印象的なターミナル空間とする

⑫多様な交通広場とターミナルを内包するドラマチックな都市空間をつくる

⑬やさしくカーブした構造体で、新たな都市景観を生み出す

岩村和夫



鳥瞰模型写真

Towards and back from the future

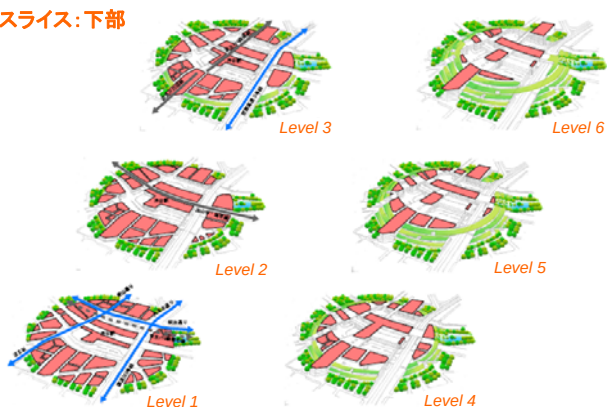


現状

ビル・スライス: 上部



ビル・スライス: 下部



計画概要

- 名称: 緑の丘のターミナル(渋谷プロジェクト2050)
- 計画地: 東京都渋谷区渋谷駅周辺
- 計画期間: 2009年10月 ~ 2010年1月
- 計画: 東京都市大学岩村研究室+(株)岩村アトリエ



IWAMURA Atelier Inc. www.iwamura-at.com

10)

4G HOUSE (NEXT21 404号室)

Osaka, JAPAN

近未来の世帯とライフスタイルのための新たな住まいのかたち

NEXT21は大阪ガスが社員用の実験的な集合住宅として1993年に建てたサステナブル建築の記念碑である。竣工以来、長年にわたって事後検証がなされ、数年おきには来たるべき時代の家族像やライフスタイル像に従って、いくつかの住戸の改築が行われてきた。その一環として、フェーズ4にあたる404住戸と501住戸の全面的なリニューアルのために、ディベロッパーと設計事務所のチームを対象とする公開コンペが開かれた。幸いにも我々が404住戸に提案した「4G HOUSE」が選ばれ竣工したのは2014年7月のことであった。こうした事業が可能となったのは、当初からNEXT21の基本戦略として実施された極めてフレキシブルなオープン・ビルディング（スケルトン・インフィル）のシステムによるものである。

4G HOUSEは、現在小規模な世帯が抱える経済的および日常生活の課題を勘案し、2020年の一つの家族像をまず描くことで提案された。その基本的な考え方は、お互いに助け合いながらお独立した生活が送れる、4世代の4人の女性のための住戸である。

その主なコンセプトは以下の通りである。

> 極端に低い出生率を原因とする、社会の少子高齢化に伴う経済的基盤の弱体化に起因する不安を取り除いて生活する。その実現には、かつてのような大家族やそれに続く核家族化のモデルを目指すことは現実的ではなく、親類の縦の世代を結びともに暮らす姿が浮かび上がる。

> それは恐らく、近年の経済的・社会的要因で離れて暮らすことを余儀なくされていた家族の構成員が、再びともに暮らすイメージの新たなかたちを示すことになるだろう。

> 我々が描いた構成員の具体的なイメージとは、①離婚した30代前半の写真家である私と、②3歳の娘、③早くに夫と死別した50代後半のデザイナーでファッション雑貨店を営む母、そして④ドレス・メーカーで80代前半の祖母、の4人である。

> ではなぜ4G HOUSEなのか。その理由は、①4人のために2戸の住宅は非効率的である、②2世帯のための戸建て住宅は大きすぎる、③それぞれの個室が緩やかに繋がる配置の工夫で、十分に快適に暮らせる、からである。

平面配置上の特徴：

> 緩やかに繋がる個室群に囲まれた「みんなの部屋」

> その中央に置かれ、住み手や訪問者が思い思いに使えてお互いのコミュニケーションもとれる変形の大きな「みんなの机」

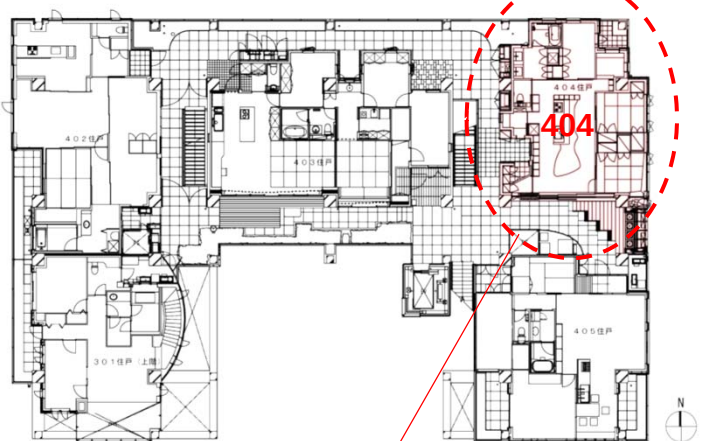
> それを可能とする引き違いの障子や建具群

> 南側の共用空間に設けた、近隣とのコミュニケーションのための中間領域「井戸端コーナー」

岩村和夫



個室に囲まれたみんなの部屋



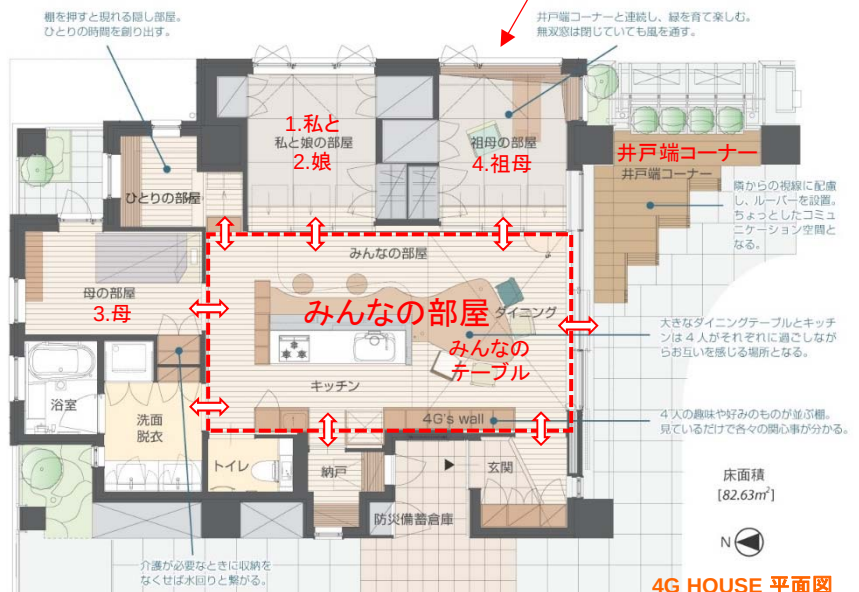
4階平面図



NEXT21

建築概要

- 名称: 4G HOUSE (NEXT21 404号室)
- 所在地: 大阪市天王寺
- 計画・設計期間: 2013
- 竣工: 2014年7月
- NEXT21敷地面積: 1,542m²
- 4G HOUSE床面積: 83m²
- ディレクション: 大京
- 計画・設計: (株)岩村アトリエ



4G HOUSE 平面図



IWAMURA Atelier Inc. www.iwamura-at.com

11)

The Meta-Sand Spiral

国際設計競技「The Science City」参加案、2016年8月

Cairo, EGYPT

・基本コンセプト

- 1) エジプトの3つの最後を飾る宝石として整備される「科学都市」を「メタ・サンド・スパイラル」と名付け、多様な最先端の試みを展開する。その成果の全ては、地域及び全世界のレジリエントな人と自然の生命を生み出すのに貢献しなければならない。
- 2) 「メタ・サンド・スパイラル」とは文化、自然、文明、生命の革新的な孵化器で、「メタ・サンド」と「スパイラルな進化」に基づく。
- 3) 「メタ・サンド」は、地域の基本的な要素であり、建築的なシンボリックな要素でもある「砂」の隠喩(Metaphor)、形而上学(Metaphysics)、変容(Metamorphosis)を意味する。
- 4) ここで「The Science City」は、右図に示す時間とスケールを軸とするスパイラルな座標イメージ上に位置づけられる。そして、革新的な科学はいかなる境界を超えてこの三次元の座標上で統合的に発展する。

・建築的なコンセプト

- 1) **メタ・サンド・ファサード**: 各セルの有機的なファサードは、多孔質な「メタ・サンド・ブリック」で構成され、独特な表情を醸し出すだけでなく、熱環境を和らげ微気候の改善に資するデザインともなる。
- 2) **螺旋中庭**: 施設利用者は、3つのセルの透明な外壁に囲まれ、各階を螺旋状のスロープで繋ぐ、静逸で大きなこの美しい中庭を外部から煩わされることなく、愛でることができる。
- 3) **展望タワー**: 他のフラットな低層棟に対して屹立し、その三角形を水平・垂直断面に持つ独特な形状とともに、地区のランドマークとして周囲の景観の中で際立っている。
- 4) **ナイトスケープ・デザイン**: 自然光の四季や毎日の時刻の移り変わりにしたがって、全施設群は多孔質なファサードとタワーによるエコロジカルな照明効果を満喫できるようにデザインした。(下図参照)

岩村和夫

南立面図

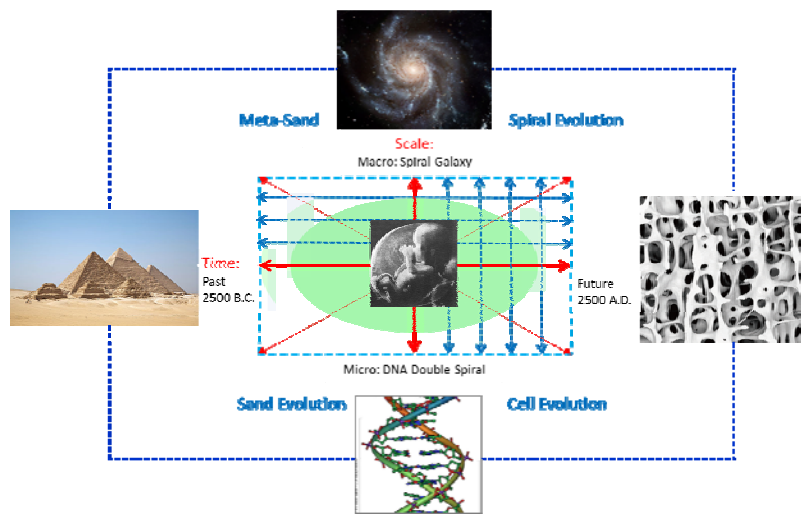


建築概要

- 名称: The Meta-Sand Spiral
- 所在地: エジプト、ギザ
- 計画・設計期間: 2016年5~8月
- UIA認定国際設計競技(アレキサンドリア図書館主催)
- 敷地面積: 125,000m²
- 延床面積: 82,000m²
- 計画・設計: 安井設計・岩村アトリエ共同企業体
- 協力: タウンスケープ

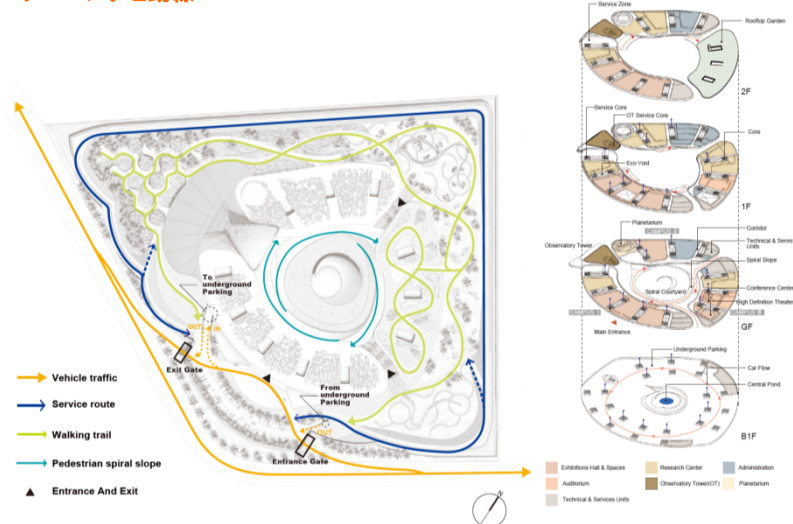
ライトスケープ(面出薫氏と共同)

コンセプト座標(時間軸とスケール軸)



メタサンド(上)とスパイラル(下)

ゾーニングと動線



2017/11/7



47

株式会社 岩村アトリエ

〒231-0012 神奈川県横浜市中区相生町1-17-1 パークビュー横浜301

Tel: 045-211-9215 Fax: 045-211-9272

E-mail: webmaster@iwamura-at.com

URL: www.iwamura-at.com

(2017年10月現在)